



## 清和短歌会歌会始め

清和地区の短歌愛好家が集う「清和短歌会」の新年会が青葉の瀬で開催されました。2013年歌会始めです。出席者が5首ずつ披露しあい、お互いに研鑽を積んでいました。清和短歌会には現在16人が加入しています。毎月広報誌の「季節のうた」にすばらしい歌を寄せていただいています。



清和短歌会のみなさん

## 救急フォーラム

1月26日、蘇陽総合支所営農ホールで「救急フォーラム」が開催されました。（町・町医師会等主催）

二瀬本保育園園児によるエイサー演舞に続き講演したのは、日赤熊本健康管理センター名誉所長の小山和作氏。小山氏は『今地域医療に求められるもの』と題した講演の中で、「医療の専門化、細分化が進んでいる今、カギはトータル医療。連携の医療。町民が支え、町民を支える地域医療。地域医療はまさに地域づくりといえる」と話しました。その後、山都消防署署員による寸劇のほか、パネルディスカッションも行われました。



たくさんの方が参加しました

## 仁瀬本神社神楽

1月19日、仁瀬本神社夜渡神楽の奉納会が二瀬本コミュニティセンターで開催されました。およそ900年前からこの地に伝わる、県無形文化財である仁瀬本神社神楽。午後6時から、約6時間にわたり舞が奉納されました。厳かな舞や笑いをさそうこっけいな舞などで、コミュニティセンターを埋めた多くの来場者を楽しませました。会場では、神楽保存会婦人部によるおにぎりやだご汁なども振る舞われました。



太鼓の上での舞「八鉢」

## 観光協会が清和小に シャツ贈呈

総合学習の時間を使い、清和文楽人形浄瑠璃について学んでいる清和小学校6年生17人にうれしいプレゼントがありました。1月21日、山都町観光協会（山下泰雄会長）が、そろいのシャツと人形浄瑠璃で使用する頭巾を寄贈しました。観光協会では、同小4年生がキッズガイドを取り組んだ際にはTシャツをプレゼントしました。



清和小6年生は今、3月の文楽館での人形浄瑠璃発表会に向けて週に1時間の練習を重ねています。

## 木製おもちゃで 木のぬくもりを

上益城地域木材需要拡大推進協議会が、町内の保育園などに木製のおもちゃを贈りました。この取り組みは、木にふれあう機会を増やして、子どもたちに、木の文化や森林を理解してもらうと平成18年から行われています。今回は、明光保育園と地域子育て支援センターにおもちゃが贈られました。明光保育園では、木製つきみなどのおもちゃを見た園児たちがすぐに興味を示して遊びはじめていました。



明光保育園での伝達式

## 自治振興区代表者研修会

2月6日、自治振興区代表者研修会が清和研修センター大会議室で行われ、28の自治振興区代表者が参加しました。研修会では、島木出身で、熊本県立大学名誉教授・東海大学名誉教授の荒木昭次郎さんが「分権・協治・協働が創り出す住民自治の世界」と題した講演しました。荒木さんは「地域活性化の主人公は地域の人たちである。主人公なくして活性化はない。地域の知恵なくして活性化はない。みんなで力と心を合わせ、協力し合って、地域の活性化を進めることが必要」と住民自治のあり方を話しました。



荒木昭次郎さん

## トムソーヤくらぶ

2月10日、町立図書館ホールで科学あそび教室が開かれました。図書館では、中学生、高校生、そして地域のお母さんたちのボランティアでつくる「トムソーヤくらぶ」による科学あそび教室を開催して、子どもたちに科学の楽しさを教えています。この日は、手や足を使わずアルミ缶をつぶす実験「かんペコッ！」を実施。25人の子どもたちが、トムソーヤのように好奇心で目を輝かせ、実験を楽しんでいました。



アルミ缶がこんなにぺちゃんこ

## 商店街にひな飾り

2月中旬、浜町の商店街を歩くと、各商店にひな飾りを見かけました。これは、商店街を活性化しようと、まちづくりやべ（株）が企画して呼びかけたもので、浜町商店街の商店で実施されました。このうち、本さつまのロビーには、約40年前から大事にされてきた、豪華な7段飾りとともに、小里郁子さん（米生）制作の「さげもん」と呼ばれる飾りが飾られていました。この「さげもん」、福岡県柳川市などに伝わるひな飾りの一種で、紙細工とまりなどが天井から下げられて、ひな飾りを豪華にひきたてます。

